交野市埋蔵文化財調査報告 2008-Ⅰ

平成 20 年度

交野市埋蔵文化財発掘調査概要

２００９．３

交野市教育委員会

例　言

1　本書は、交野市教育委員会が平成 20 年度国庫補助事業（事業総額 1,000,000 円　国庫補助率 50%　市負担率 50%）として計画・実施した交野市内における埋蔵文化財発掘調査の概要報告である。

2　発掘調査は交野市教育委員会が調査主体となって実施した。

3　本書で使用した方位は、磁北方位である。

4　断面図は土層の堆積を模式図で表した。

5　各図における（　）書きは縮尺を表す。

6　挿図の調査位置図の縮尺は 1 /5000 である。

目　　次

例言
目次
第１章　　埋蔵文化財発掘調査の状況
第１節　交野市の位置と環境 …… 1
第２節　遺跡の分布状況 …… 1
第３節　調査の状況 …… 1

第２章　　発掘調査報告 …… 8
第１節　森遺跡 …… 8
挿図
第　１図　交野市内遺跡分布図 …… 7
第　２図　森遺跡 2008－１次・－４次調査位置図 …… 8
第　３図　森遺跡 2008－１次・－４次トレンチ配置図・断面模式図 …… 10
第　４図　調査地位置図・掘削図及び断面模式図（１） …… 11
第　５図　調査地位置図・掘削図及び断面模式図（２） …… 12
第　６図　調査地位置図・掘削図及び断面模式図（３） …… 13
第　７図　調査地位置図・掘削図及び断面模式図（４） …… 14
第　８図　調査地位置図・掘削図及び断面模式図（５） …… 15
第　９図　調査地位置図・掘削図及び断面模式図（６） …… 16
第 10 図　調査地位置図・掘削図及び断面模式図（７） …… 17
第 11 図　調査地位置図・掘削図及び断面模式図（８） …… 18

挿表
第１表　平成 20 年度発掘調査一覧（１） …… 3
第２表　平成 20 年度発掘調査一覧（２） …… 3
第３表　平成 20 年度発掘調査一覧（３） …… 4
第４表　平成 20 年度発掘調査一覧（４） …… 5
第５表　平成 20 年度発掘調査一覧（５） …… 6

写真図版

写真図版１　森遺跡 2008－１次調査　第１トレンチ …… 19
写真図版２　森遺跡 2008－１次調査　第２トレンチ …… 19
写真図版３　森遺跡 2008－４次調査　第２トレンチ …… 20
写真図版４　森遺跡 2008－４次調査　第３トレンチ …… 20

報告書抄録 …… 21

第１章　埋蔵文化財発掘調査の状況

第１節　交野市の位置と環境

交野市は、大阪府の東北部、大阪と京都のほぼ中間に位置する人口約８万人規模の都市である。東は生駒山系を境にして奈良県生駒市と、西は寝屋川市、南は四條畷市、北は枚方市に接している。大阪市、京都市、奈良市いずれまでの距離が約 20km で、市の東部は関西文化学術研究都市区域となっている。市域は、東西 5.4km、南北 6.8km、面積 25.55 ㎢で、そのおよそ半分を山地が占めている。山地部は、風化の進んだ花崗岩からなり、多くの急渓流が分布し、平野部は洪積層および沖積層から成り立っている。河川は寝屋川支流の傍示川のほかは、天野川及びその支流でありいずれも淀川水系に属する。

土地利用としては、市域の約半分を占める山地のうち、一部が宅地化しているものの、国定公園・府民の森等の土地利用規制が定められており植生が保持されている。平野部は宅地、鉄道駅周辺や幹線道路沿道付近では商業地として利用され、工業地は平野部でも計画的に整備された星田北、幾野地区における工場適地に集積している。

第２節　遺跡の分布状況

周知の遺跡は 67 箇所を数える。これらの遺跡の大部分は、交野が原と呼ばれる台地部や生駒山地の山麓部分にある。大阪府下でも屈指の古い石器が出土した旧石器・縄文時代の神宮寺遺跡をはじめ、弥生時代～中世・近世の私部城遺跡、上の山遺跡、私部南遺跡、上私部遺跡などの集落遺跡、森遺跡、大谷北窯跡などの生産遺跡、前期古墳の森古墳群、中期の交野車塚古墳群や後期の倉治古墳群・寺古墳群などの古墳、中・近世の平城である私部城跡などがある。また中世・近世の東高野街道の街道筋にもあたっている。

第３節　調査の状況

交野市教育委員会では平成 20 年４月１日から平成 21 年２月 28 日に至る間、森遺跡他 17 件の補助事業に係る発掘調査を実施した。埋蔵文化財の届出件数は、平成 21 年２月 28 日の時点で 81 件である。昨年の同時期における届出件数が 79 件であ

りほぼ横ばいであるが、ここ数年の状況としては減少傾向にある。

工事の種別では、個人住宅建設が全体の３割、分譲住宅建設が３割、その他４割となっている。ここ数年のデータでは1000㎡以上の土地における大規模宅地造成の増加に伴い、分譲住宅の建設が多かったため届出件数は増加傾向を示していたが、昨年から減少方向に転じている。

遺跡別に見てみると届出件数の最も多かったのは、星田旭遺跡14件、ついで坊領遺跡10件、私部南遺跡・森遺跡９件、交野郡衙跡８件と続く。大規模開発による分譲住宅の建設数が減少したので、これまでのように届出件数が一遺跡に集中することはなくなった。なお届出の内訳は、確認調査22件、立会調査４件、慎重工事55件となっている。

今年度補助事業に係る確認調査の対象となった遺跡は、東倉治遺跡、森遺跡、星田旭遺跡、星の森遺跡、上の山遺跡、門ノ木・坊領遺跡、寺村北遺跡、交野郡衙跡、私部城跡、寺村遺跡の10遺跡17件である。このうち森遺跡2008－４次調査については、遺構確認のため調査範囲を拡大した。各調査の詳細については別に一覧表を記載する。

平成19年度届出分　第１表　平成20年度発掘調査一覧（１）

	調査日	遺跡名	調査地	調査内容
1	20．4．9	東倉治遺跡 2008－１次	東倉治４丁目 2228-18 他	調査地北側に約0.8×0.6mのトレンチを設定し、人力にて約0.7m掘削を行なった。第１層は盛土、第２層は砂、第３層は細砂、第４層は粗砂が堆積していた。遺構・遺物なし。
2	20．4．21	森遺跡 2008－１次	森南１丁目 406 他	詳細はＰ８～９に記載

平成20年度届出分　第２表　平成20年度発掘調査一覧（２）

	調査日	遺跡名	調査地	調査内容
3	20．5．15	星田旭遺跡 2008－１次	南星台２丁目 2060 番１	調査地中央南側に約2.2×2.2m（１ｔｒ）、北側に約2.2×0.63ｍ（２ｔｒ）のトレンチを設定し、重機にて約2.2m掘削を行なった。両トレンチ共に第１層は盛土、第２層は砂が堆積していた。遺構・遺物なし。
4	20．6．23	星の森遺跡 2008－１次	星田７丁目 2118－１	調査地北側に約2.0×2.0mのトレンチを設定し、重機にて約2.0m掘削を行なった。第１層は盛土、第２層はシルト混砂礫、第３層は砂礫混粘土、第４層は砂礫、第５層は細砂が堆積していた。遺構・遺物なし。
5	20．7．3	上の山遺跡 2008－１次	私部西４丁目 1032－７	調査地中央に約2.5×2.0mのトレンチを設定し、重機にて0.6m掘削を行なった。第１層は表土、第２層はシルトブロックを含む砂礫混粘質土、第３層は礫混粗砂が堆積していた。確認のため一部深く掘削を行なったところ、第３層がさらに続く事を確認した。第２面上で土師器片のような微細な遺物を確認したが、遺構は発見できなかった。

第３表　平成20年度発掘調査一覧（３）

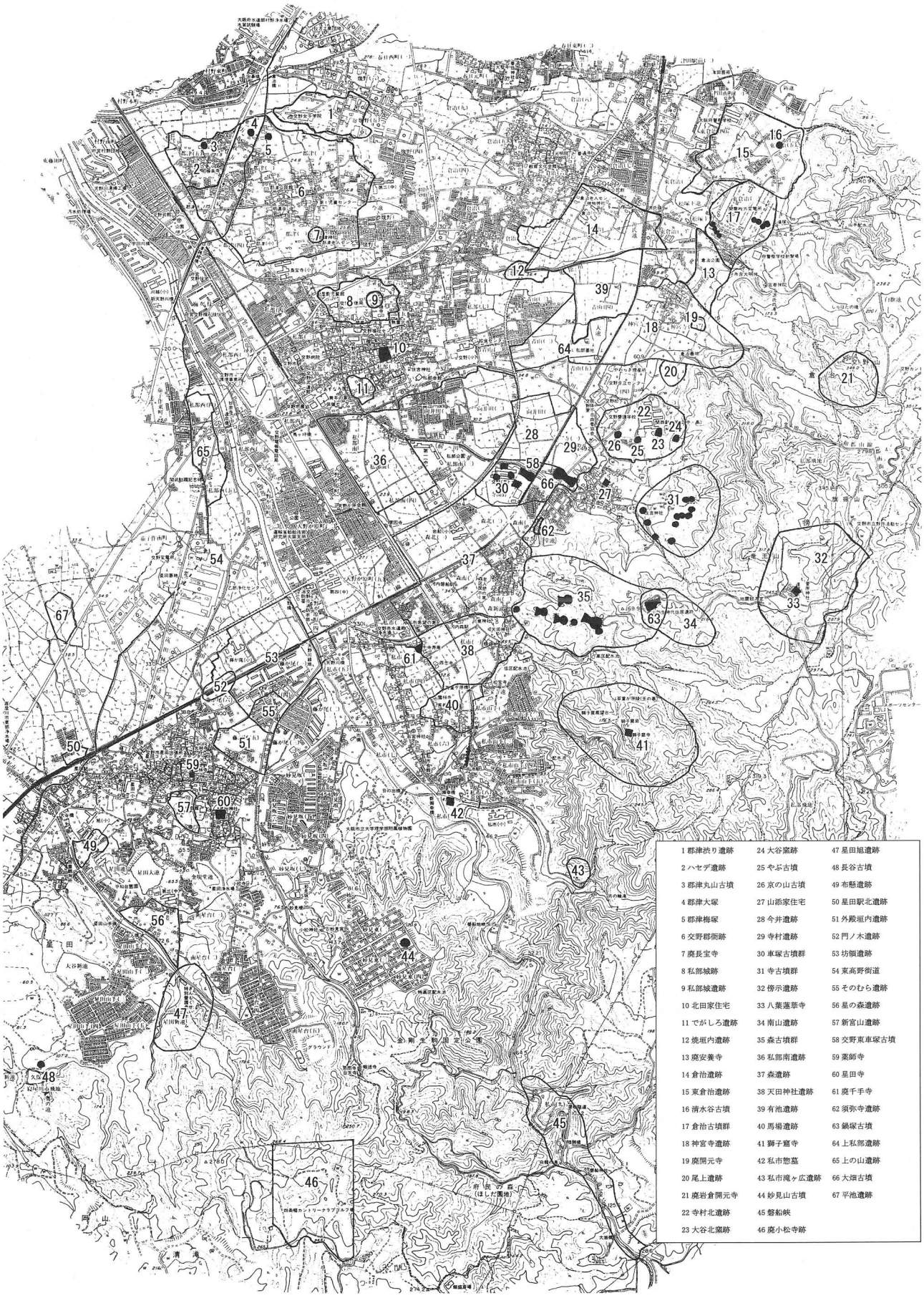
6	20．7．29	門ノ木・坊領遺跡 2008－１次	藤が尾６丁目 198－１他	調査地南側に約2.0×1.2m（１ｔｒ）、１ｔｒの北側に約2.0×2.0m（２ｔｒ）のトレンチを設定し、重機にて約2.4m掘削を行なった。第１層は両トレンチとも盛土、第２層は１ｔｒは砂礫混シルト、２ｔｒはシルトが堆積していた。遺構・遺物なし。
7	20．8．8	森遺跡 2008－２次	森南３丁目 75番３の一部	調査地中央に約 1.0×1.0mのトレンチを設定し、人力にて約0.6m掘削を行なった。第１層は盛土、第２層は耕作土が堆積していた。遺構・遺物なし。
8	20．8．19	寺村北遺跡 2008－１次	寺２丁目 465－１外	南側調査地に約 2.0×2.0mのトレンチを２つ（１・２ｔｒ）、北側調査地に約1.6×1.0mのトレンチ（３ｔｒ）を設定し、重機にて１ｔｒ約 1.8m、２ｔｒ約1.8m、３ｔｒ約1.1m掘削を行なった。１ｔｒは第１～２層は砂礫、３～７層は粘土と砂礫が交互に堆積。２ｔｒは第１層は表土、２～３層は砂礫混砂質土、第４層は砂礫混粘質土、第５層は砂礫混シルト、第６層は砂礫が堆積。３ｔｒは第１層は表土、第２層は粘土、第３層は砂礫混粘質土、第４層はシルト混砂礫、第５層は砂礫混シルトが堆積していた。２ｔｒと３ｔｒの第２～３層中より遺物片を確認した。遺構なし。
9	20．9．2	交野郡衙跡 2008－１次	郡津２丁目 1848-14他	調査地南西に約 1.6×1.5mのトレンチを設定し、重機にて約1.0m掘削を行なった。全て盛土であった。確認のため一部深く掘削したところ、盛土下が耕作土、その下層が砂混粘土の地山面となる事を確認した。遺構・遺物なし。

第４表　平成20年度発掘調査一覧（４）

10	20．9．3	森遺跡 2008-３次	森北１丁目 131番他	調査地南側に約 2.0×1.1m（１ｔｒ）、北側に約2.0×0.9m（２ｔｒ）のトレンチを設定し、重機にて１ｔｒ約1.6m、２ｔｒ約2.0m掘削を行なった。層位は１ｔｒは第１層は表土、第２層は盛土であった。２ｔｒは第１層は表土、第２層は盛土、第３層はシルトが堆積していた。遺構・遺物なし。
11	20.10．3 ～10.11	森遺跡 2008-４次	森南１丁目 406番５の一部	詳細はＰ８～９に記載。
12	20.11.27 ～11.28	私部城跡 2008-１次	私部５丁目 2494番-２の一部	調査地南側に約 1.8×1.5mのトレンチを設定し、人力にて約0.4m掘削した後、確認のため一部深く掘削を行なった。第１層は表土、第２層は盛土、第３層は砂礫、第４層は砂礫混粘質土、第５層は砂礫混細砂、第６層は砂礫混シルトが堆積していた。第２面でピットと微細な遺物片を、第３面でピットを確認した。トレンチを設定した位置が石垣に近いことや土層の堆積から、時代は特定できないが、石垣を積みなおす際にかなりの改変が行なわれていると考えられる。
13	20.12．8	寺村遺跡 2008-１次	寺２丁目 247番の一部	調査地中央に約 4.9×1.0m（１ｔｒ）、南側に約1.8×0.8m（２ｔｒ）、北側に約2.0×1.3m（３ｔｒ）のトレンチを設定し、重機にて１ｔｒ約 0.6m、２ｔｒ約0.9m、３ｔｒ約0.4m掘削を行なった。第１層は耕作土、第２層は砂礫混シルト、第３層は砂礫混粘土が堆積していた。２、３ｔｒを一部深く掘削したところ、２ｔｒの下層はシルト混砂礫、３ｔｒの下層は粘土となる事を確認した。第３層より微細な遺物のようなものを確認したが、遺構は発見できなかった。

第５表　平成20年度発掘調査一覧（５）

14	20.12.18	交野郡衙跡 2008-２次	郡津３丁目 1885-３他	調査地南側に約1.4×1.0mのトレンチを設定し、人力にて約0.5m掘削を行なった。第１層は表土、第２層は盛土、第３層は砂礫、第４層は砂礫混粘質土、第５層は砂礫混細砂、第６層は砂礫混シルトが堆積していた。一部深く掘削を行ない第６層が続く事を確認した。南側への落ち込みと、第２、第４層で遺物を確認した。第１～５層は近辺よりの搬入土であると考えられ、調査地より北では遺構・遺物を検出する可能性が高い。
15	21.１.30	寺村遺跡 2008-２次	寺２丁目 247の一部	調査地北側に約1.6×1.0mのトレンチを設定し人力にて約1.0m掘削を行なった。第１層は表土、第２層は盛土、第３層は耕作土、第４層は砂礫混粗砂が堆積。第３層より周辺地域からの流入物と考えられる微細な遺物を確認した。遺構なし。
16	21.２.３ ～２.４	交野郡衙跡 2008-３次	郡津３丁目 1002-４	調査地東側に約1.5×1.2mのトレンチを設定し人力にて約 0.9m掘削を行なった。全て盛土であった。遺構・遺物なし。
17	21.２.16	交野郡衙跡 2008-４次	幾野３丁目 1820－10	調査地西側に約1.5×1.2mのトレンチを設定し人力にて約 0.6m掘削を行なった。全て盛土であった。遺構・遺物なし。



第１図　交野市内遺跡分布図（１/30,000）

第２章　発掘調査報告

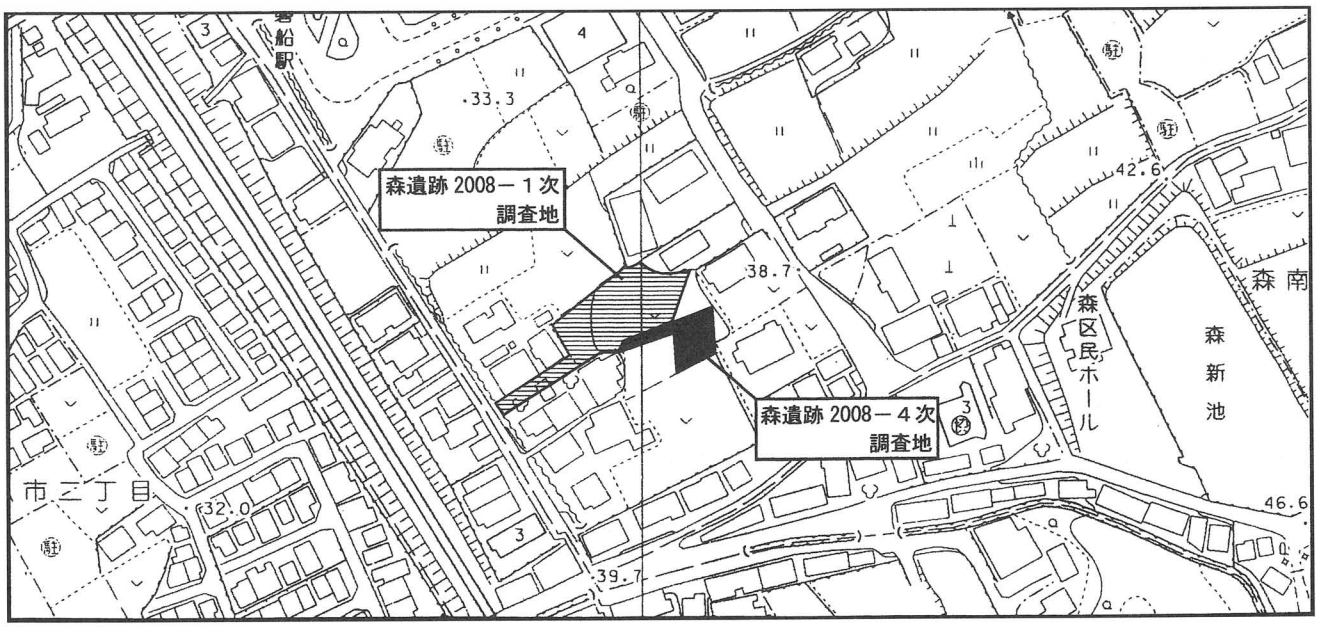
第１節　森遺跡

遺跡の概要

森遺跡は交野市のほぼ中央部に位置する森地区に所在し、東部にある竜王山より西に派生する、ゆるやかな尾根上に広がる弥生時代～中世にかけての複合遺跡である。早くより弥生時代の遺跡として知られていたため、河内磐船駅前の開発に伴い、昭和61年より順次発掘調査が行なわれた。

調査では古墳時代の掘立柱建物や鍛冶炉、溝等の遺構、フイゴの羽口や砥石等の鍛冶に関連する遺物が多く出土している。後の調査でも鍛冶関連遺跡が集中して出土した地点のさらに南側では竪穴式住居や掘立柱建物が出土しており、生産域と居住域との土地の使い分けが認められる。その後も住宅建設に伴う調査が多く行なわれており、平安時代の住居址や井戸、祭祀に関連する土拡や排水用に開削された溝等が発見されている。上層からは多数の鋤溝群や水田跡が出土していることから、平安時代以降には広く耕作地として土地を利用していることが分かり、生産地や居住地としての役割が長らく続いていた様子がうかがわれる。

近年、第２京阪道路建設に伴う大規模な発掘調査が交野市内で行なわれ、森遺跡の近隣からも新たに集落跡が発見されている。今後、周辺地域と森遺跡との関係の解明も課題となり新たな展開が期待される。



第２図　森遺跡 2008－１次・－４次調査位置図

調査の概要

①森遺跡 2008－１次調査（森南１丁目 406 他）

共同住宅建設に伴う確認調査である。調査地西側に約 1.5×1.5mのトレンチを設定した後、重機にて約 0.9m掘削を行なった。層位を観察したところ、１ｔｒの上層には厚く盛土がされており、第２層の堆積も砂礫であったが、第２層上に微細な土器片を確認したので新たに調査地の中央部分に約 5.0×1.5mの第２トレンチを設定し重機にて約 0.4m掘削を行なった。

１ｔｒの層位は３層に分かれる。第１層は盛土、第２層は礫混粗砂、第３層は砂礫が堆積する。２ｔｒの層位は３層に分かれる。第１層は盛土、第２層は礫混砂質土、第３層はシルトが堆積する。３層以下は１ｔｒの２層以下と同じ堆積となっていた。２ｔｒの第２面上で遺構・遺物らしきものを確認したが、相当な撹乱を受けており明確なものは検出しなかった。１ｔｒを設定した調査地の西側の遺構面は削平されてしまっていると考えられる。

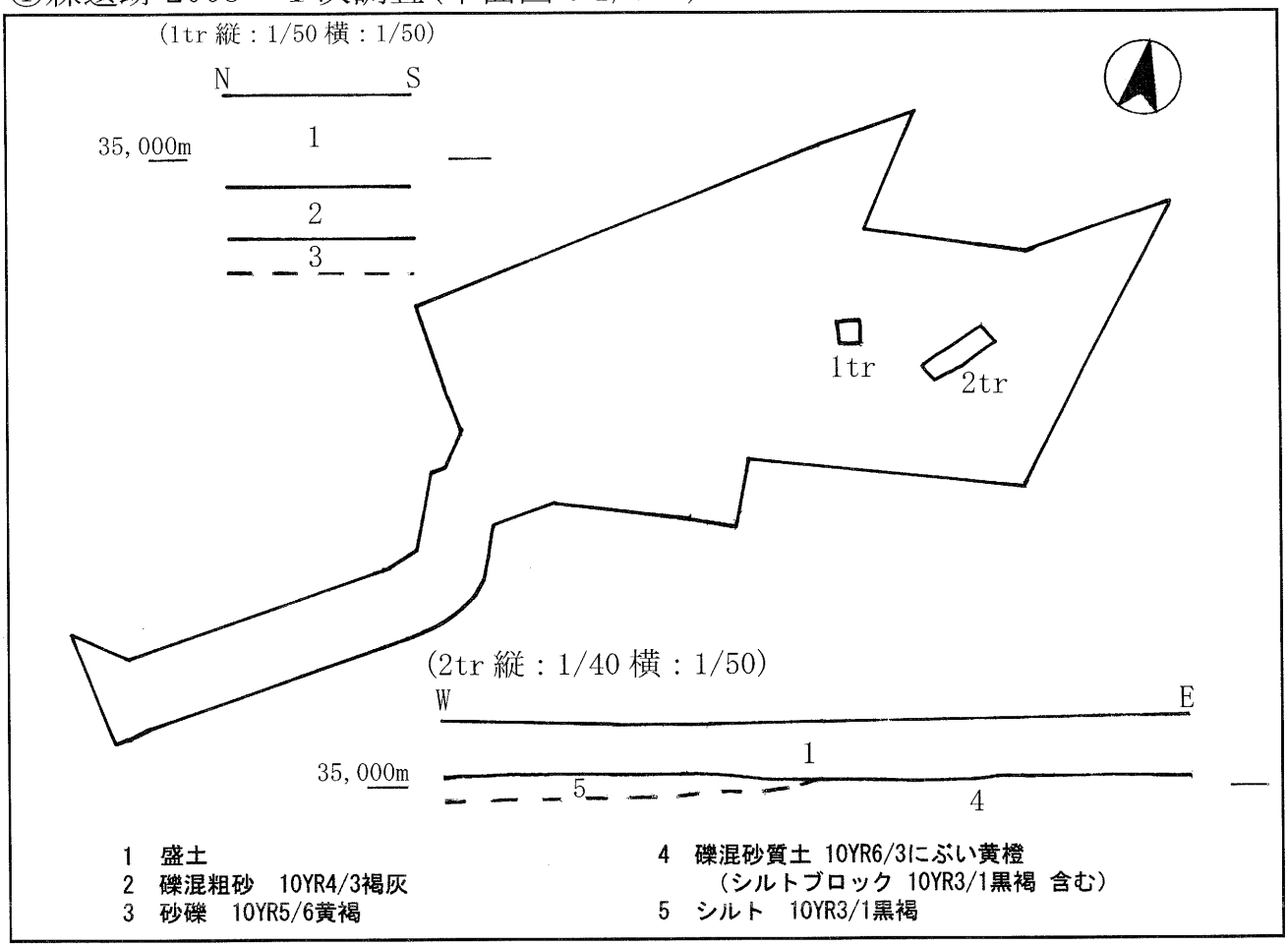
②森遺跡 2008－４次調査（森南１丁目 406-５の一部）

個人住宅建設に伴う確認調査である。調査地の北側にトレンチを設定し、重機にて掘削を行なったところ遺構・遺物を確認したため、順次第２～第７トレンチを設定し各トレンチ約 0.4～0.6m掘削を行なった。

層位は主に３層に分かれる。第１層は表土、第２層は耕作土、第３層は砂礫混粘質土が堆積していた。調査地南側では第３層は細砂礫混シルトとなり、上部に砂礫の層が堆積していた。遺構としては各トレンチよりピットを、第２、第３、第５、第７トレンチより溝状の遺構を検出した。第７トレンチの遺構に関しては上層が削平されており、遺構の残存状態は良好ではなかった。

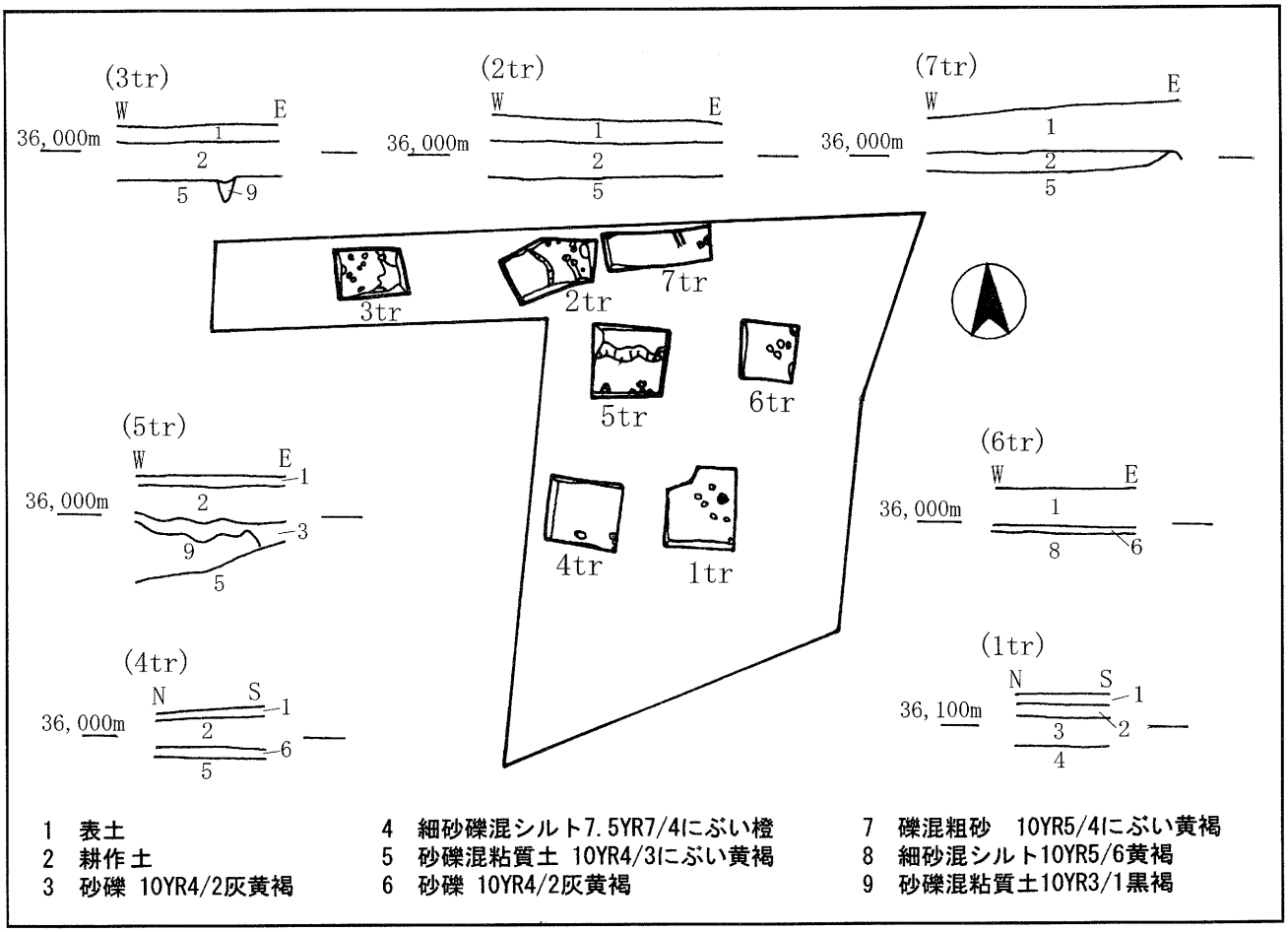
遺物は主に遺構内埋土である黒色の砂礫混粘質土よりの出土が多数を占める。遺物は破片のみの検出であり、第２、第３、第５トレンチより土師器片、須恵器片が出土した。第１、第４、第６トレンチでは微細な遺物片を確認したのみであった。第７トレンチでは遺物は確認できなかった。全て遺物が破片のみの出土であるので、明確な時代の特定はできないが、古墳時代より遡るものではないと考えられる。

①森遺跡 2008－１次調査(平面図：1/500)



1　盛土
2　礫混粗砂　10YR4/3褐灰
3　砂礫　10YR5/6黄褐
4　礫混砂質土 10YR6/3にぶい黄橙
　（シルトブロック 10YR3/1黒褐 含む）
5　シルト　10YR3/1黒褐

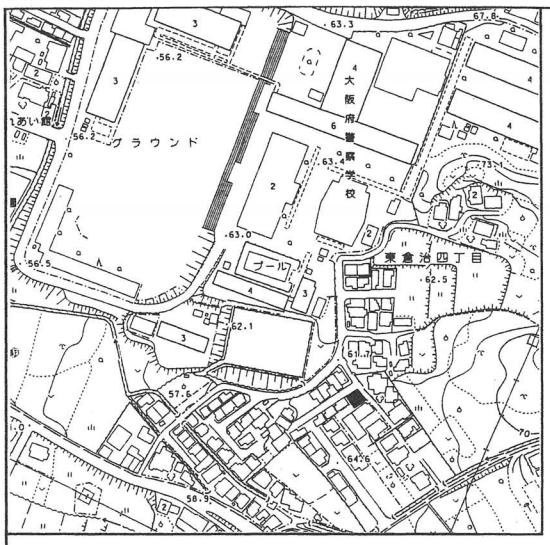
②森遺跡 2008－４次調査(平面図：1/400 断面 縦：1/40 横：1/80)

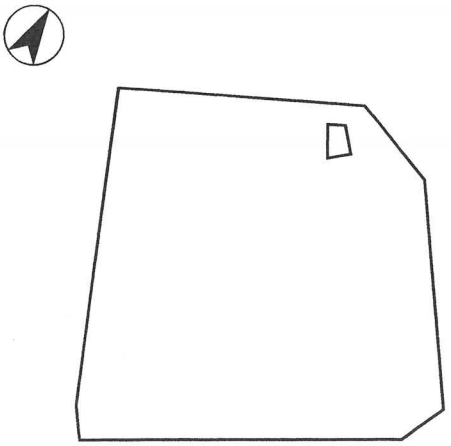


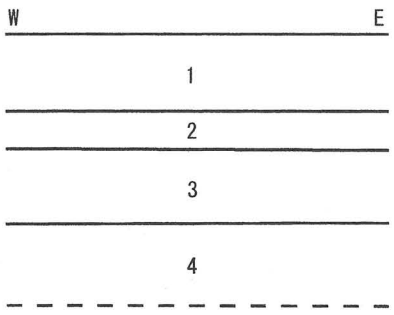
1　表土
2　耕作土
3　砂礫 10YR4/2灰黄褐
4　細砂礫混シルト7.5YR7/4にぶい橙
5　砂礫混粘質土 10YR4/3にぶい黄褐
6　砂礫 10YR4/2灰黄褐
7　礫混粗砂　10YR5/4にぶい黄褐
8　細砂混シルト10YR5/6黄褐
9　砂礫混粘質土10YR3/1黒褐

第３図　森遺跡 2008－１次・４次トレンチ配置図・断面模式図

東倉治遺跡 2008－１次調査　（平面図：１/200　断面縦：１/20）

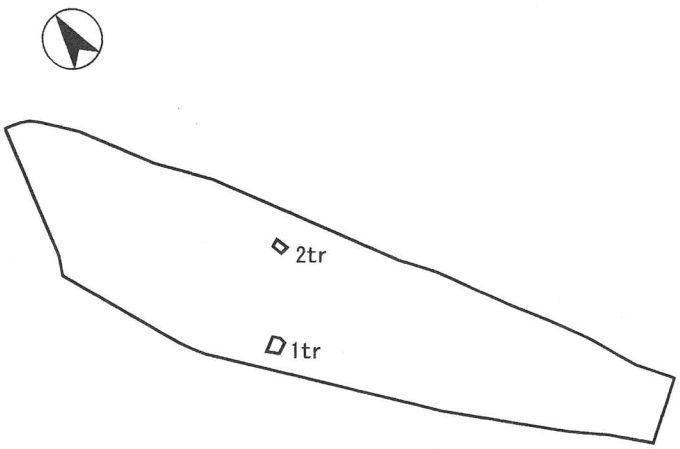


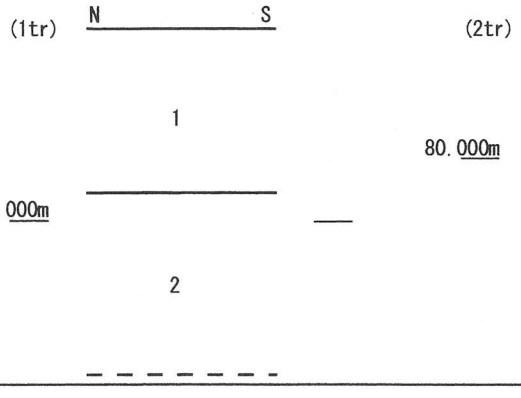


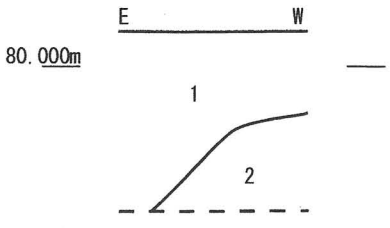


1 盛土
2 砂 10YR4/1 褐灰
3 細砂 10YR5/3 にぶい黄褐
4 粗砂 10YR5/3 にぶい黄褐

星田旭遺跡 2008－１次調査（平面図：１/ 1250　断面縦：１/40）



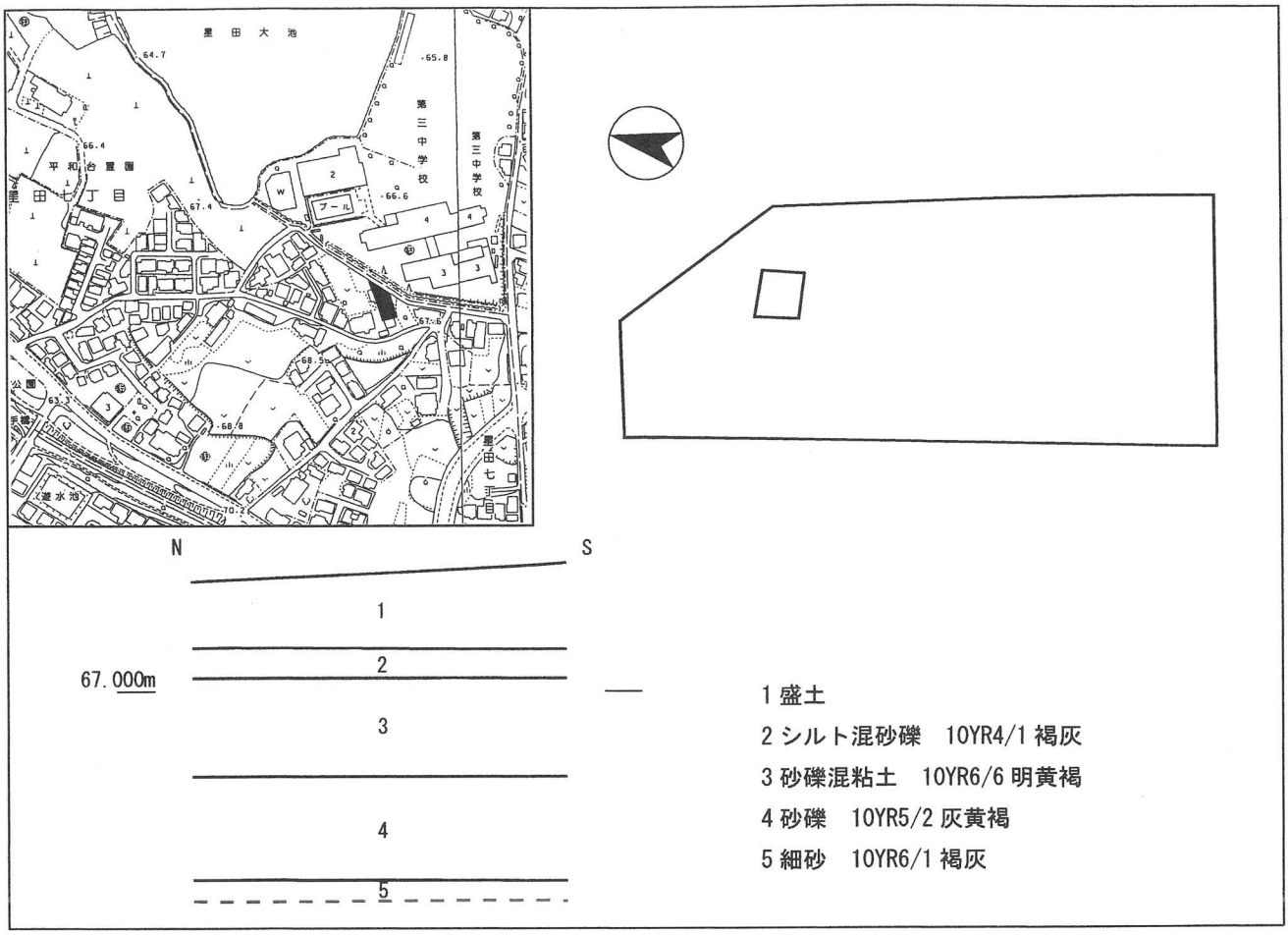




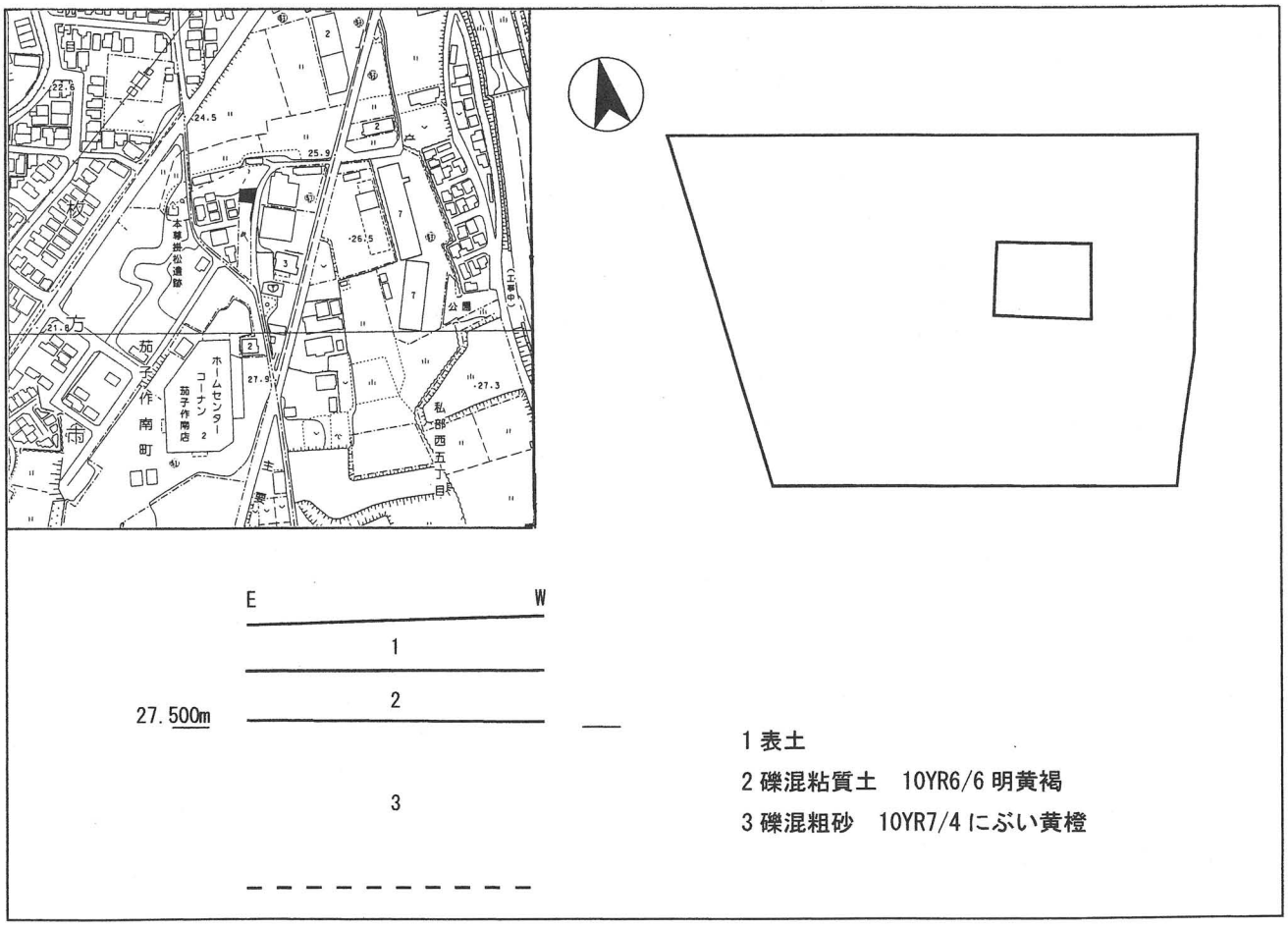
1　盛土
2　砂（ラミナ有）
7.5YR6/4 にぶい橙

第４図　調査地位置図・掘削図及び断面模式図（１）

星の森遺跡 2008－１次調査　（平面図：１/300　断面縦：１/40）

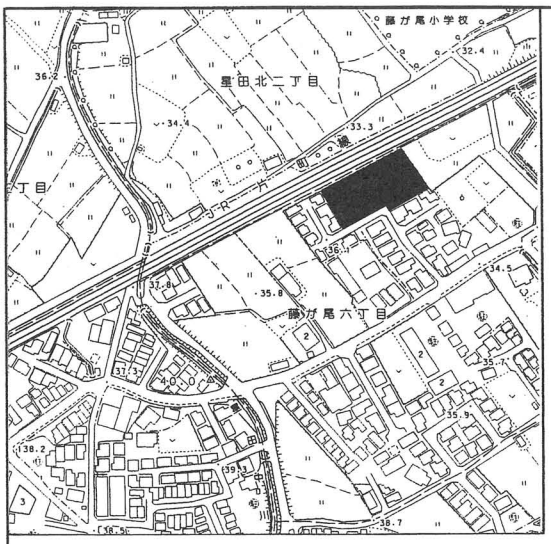


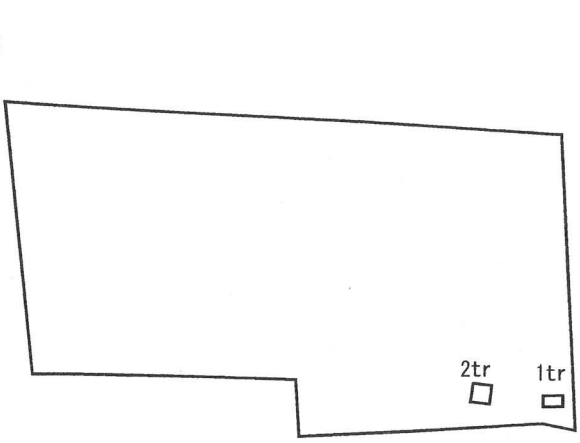
上の山遺跡 2008－１次調査（平面図：１/ 200　断面縦：１/50）

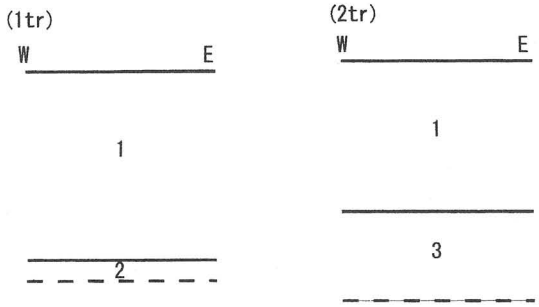


第５図　調査地位置図・掘削図及び断面模式図（２）

門ノ木・坊領遺跡 2008－１次調査　（平面図：１/800　断面縦：１/80）

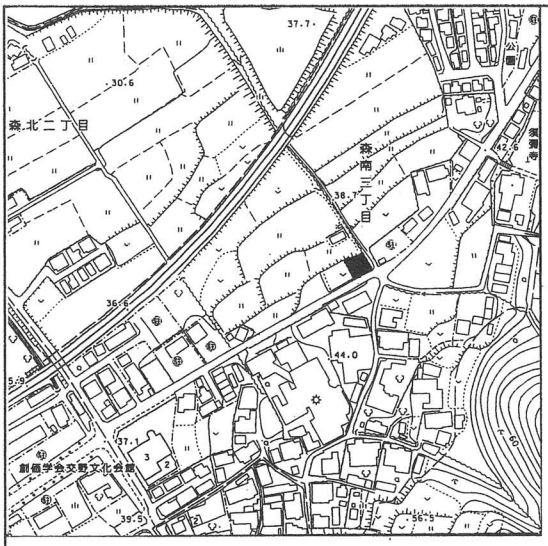


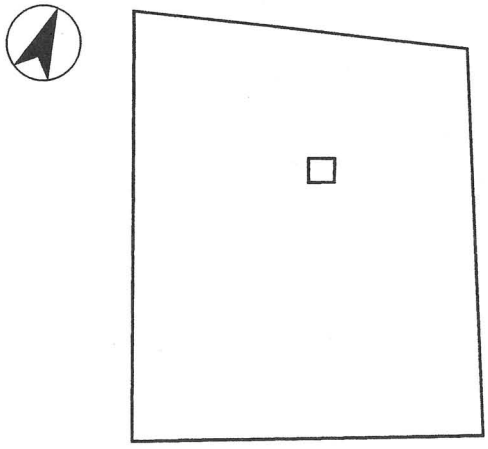


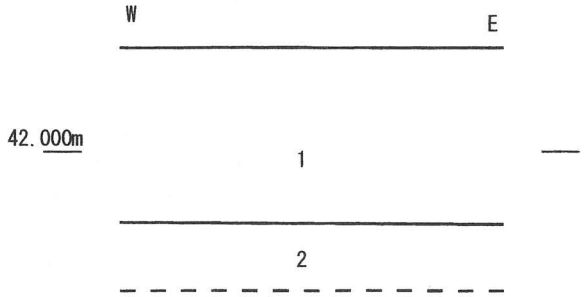


1 盛土
2 砂礫混シルト　10YR4/1 褐灰
3 シルト　10YR1.7/1 黒

森遺跡 2008－２次調査（平面図：１/ 300　断面縦：１/20）



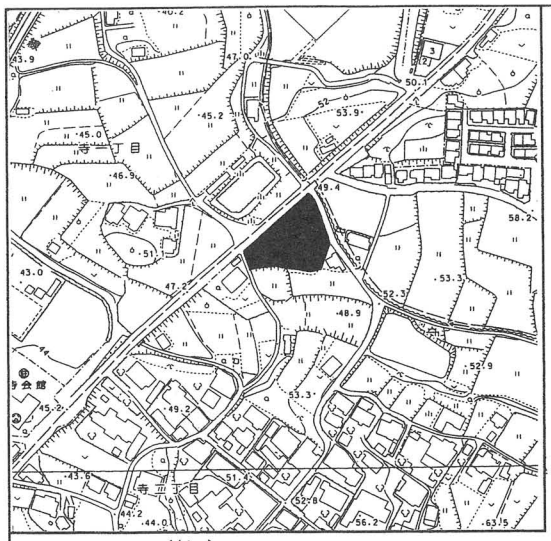


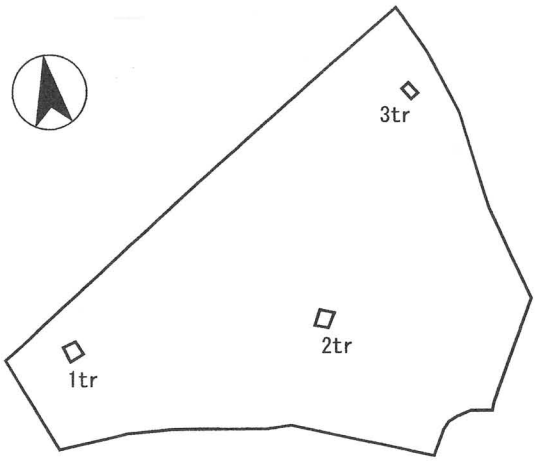


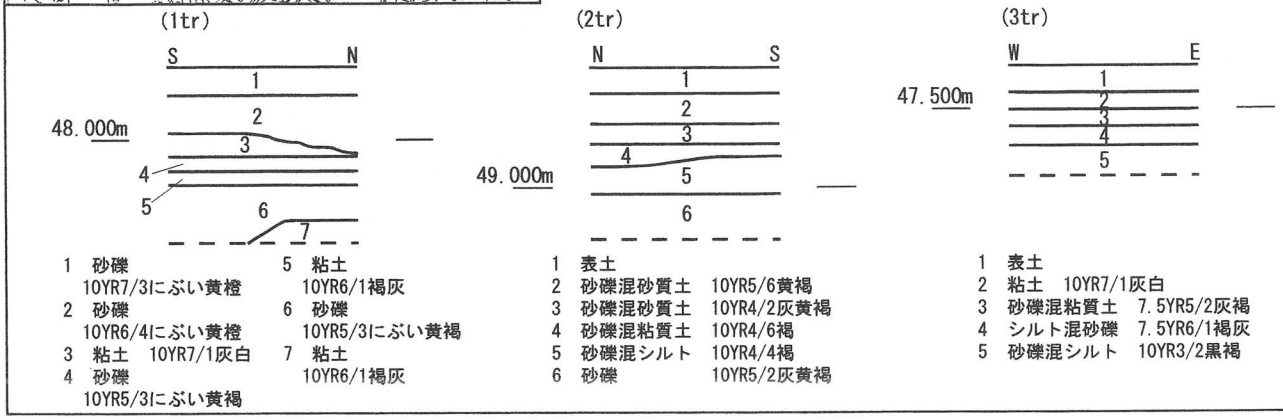
1 盛土
2 耕作土

第６図　調査地位置図・掘削図及び断面模式図（３）

寺村北遺跡 2008－１次調査　（平面図：１/900　断面縦：１/80）





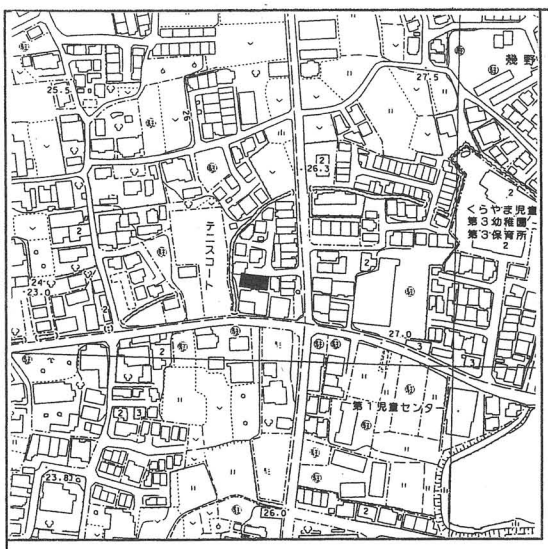


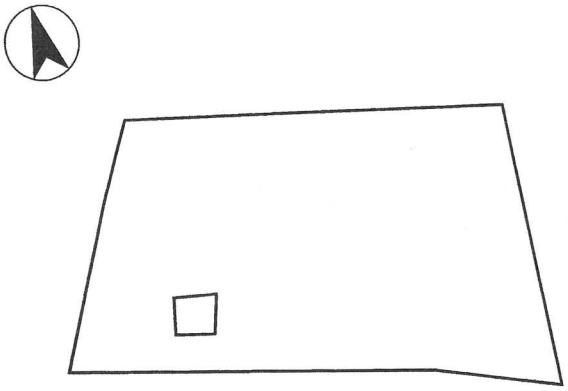
1　砂礫　10YR7/3にぶい黄橙
2　砂礫　10YR6/4にぶい黄橙
3　粘土　10YR7/1灰白
4　砂礫　10YR5/3にぶい黄褐
5　粘土　10YR6/1褐灰
6　砂礫　10YR5/3にぶい黄褐
7　粘土　10YR6/1褐灰

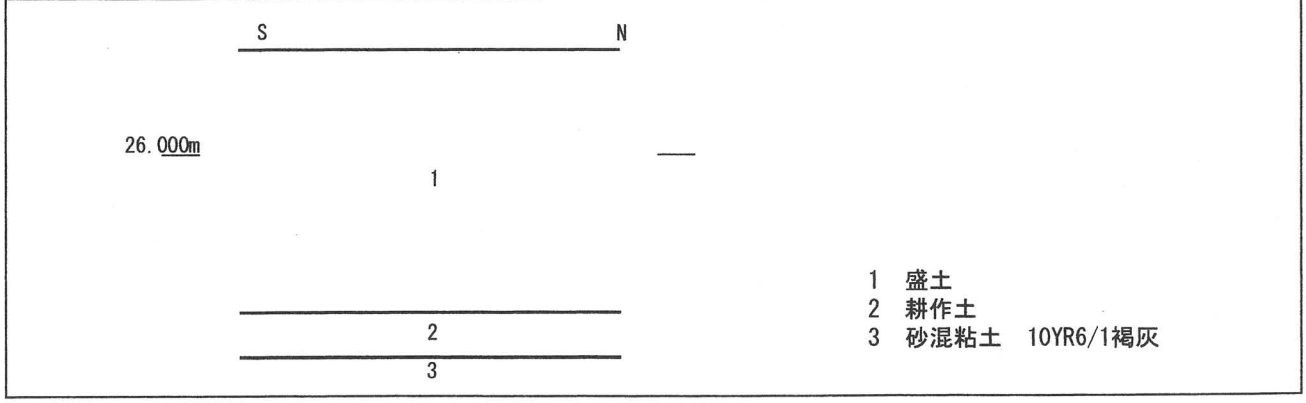
1　表土
2　砂礫混砂質土　10YR5/6黄褐
3　砂礫混砂質土　10YR4/2灰黄褐
4　砂礫混粘質土　10YR4/6褐
5　砂礫混シルト　10YR4/4褐
6　砂礫　10YR5/2灰黄褐

1　表土
2　粘土　10YR7/1灰白
3　砂礫混粘質土　7.5YR5/2灰褐
4　シルト混砂礫　7.5YR6/1褐灰
5　砂礫混シルト　10YR3/2黒褐

交野郡衙跡 2008－１次調査（平面図：１/300　断面縦：１/40）



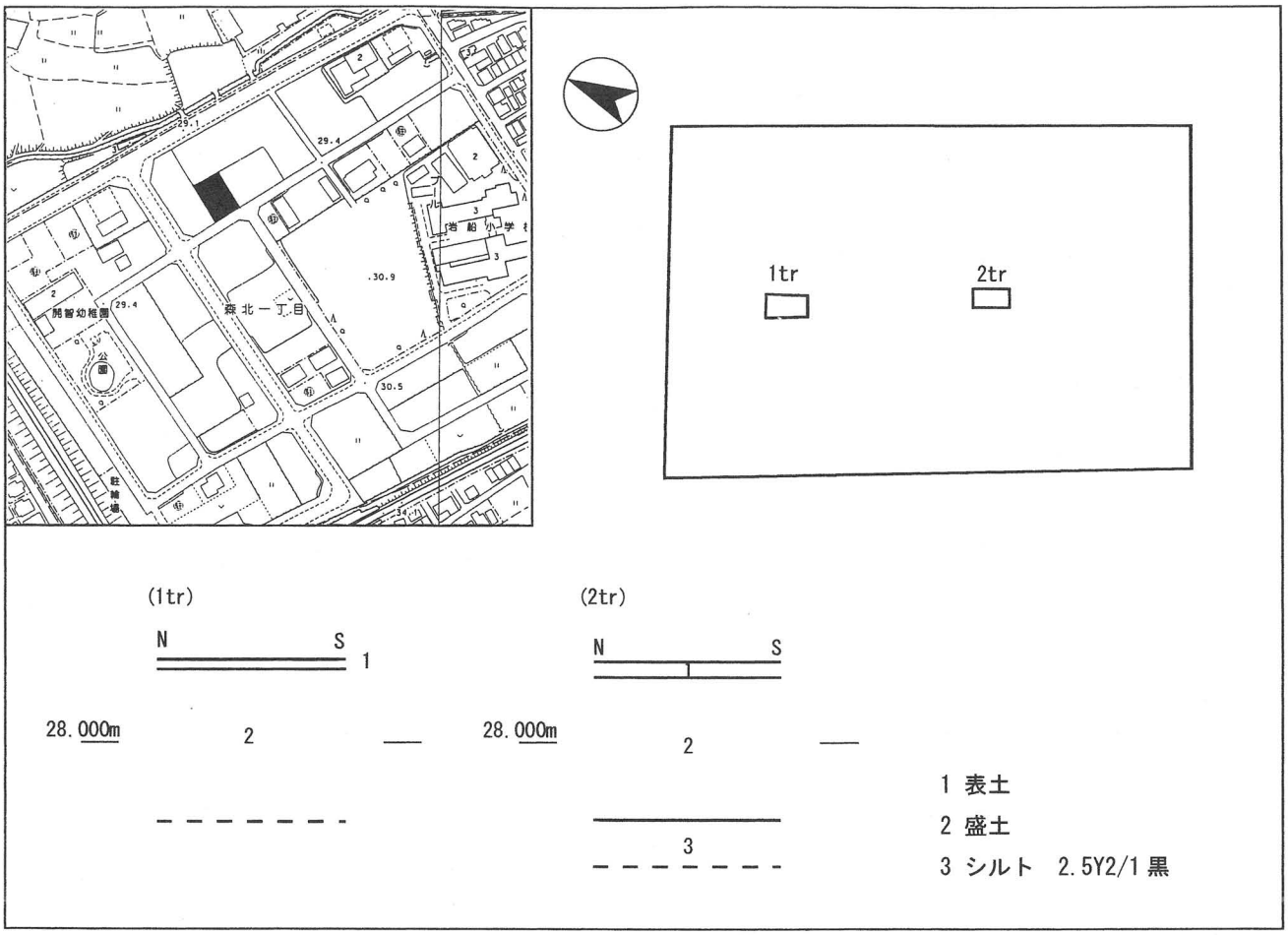




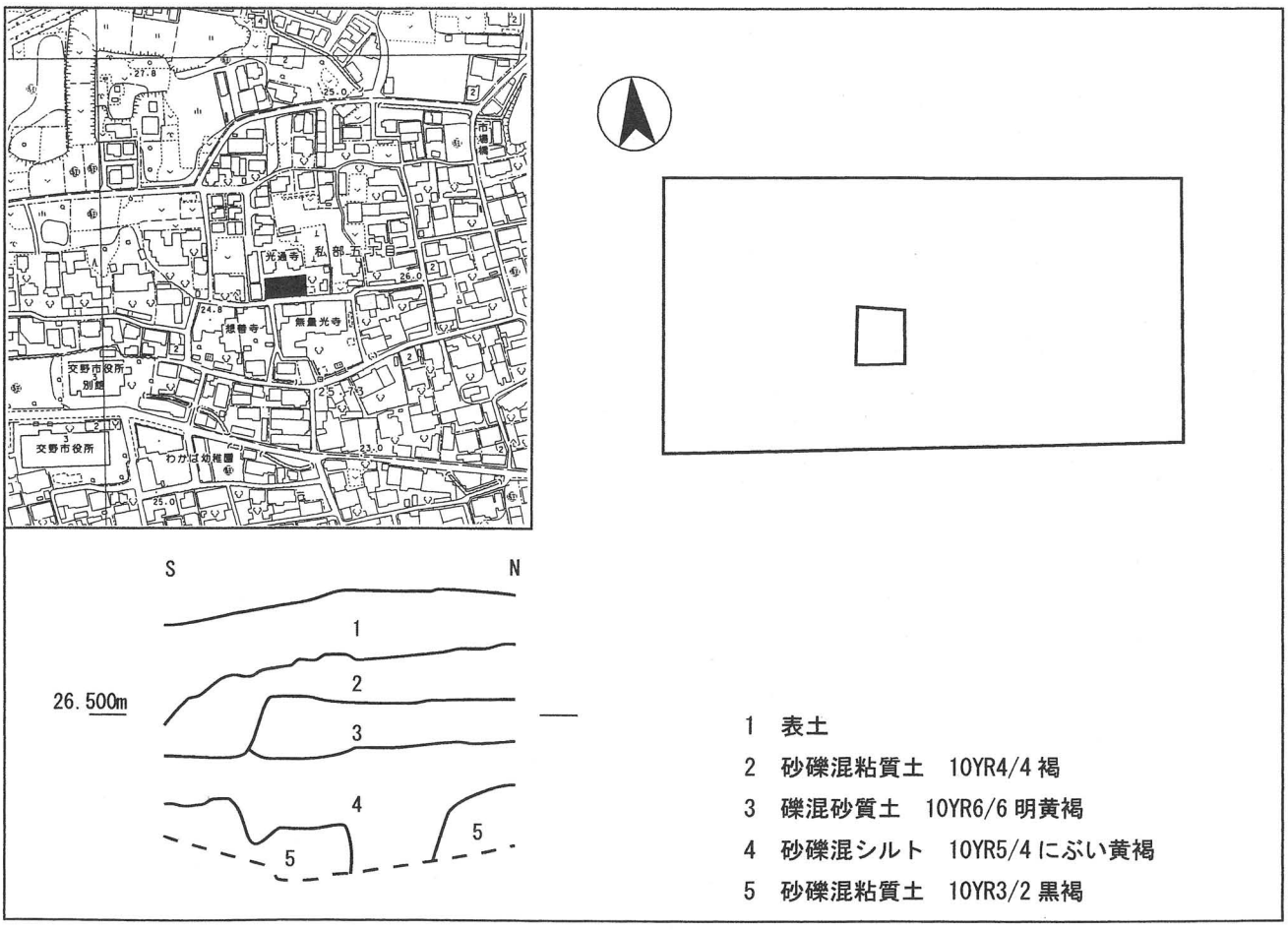
1　盛土
2　耕作土
3　砂混粘土　10YR6/1褐灰

第７図　調査地位置図・掘削図及び断面模式図（４）

森遺跡 2008－３次調査　（平面図：１/400　断面縦：１/80）

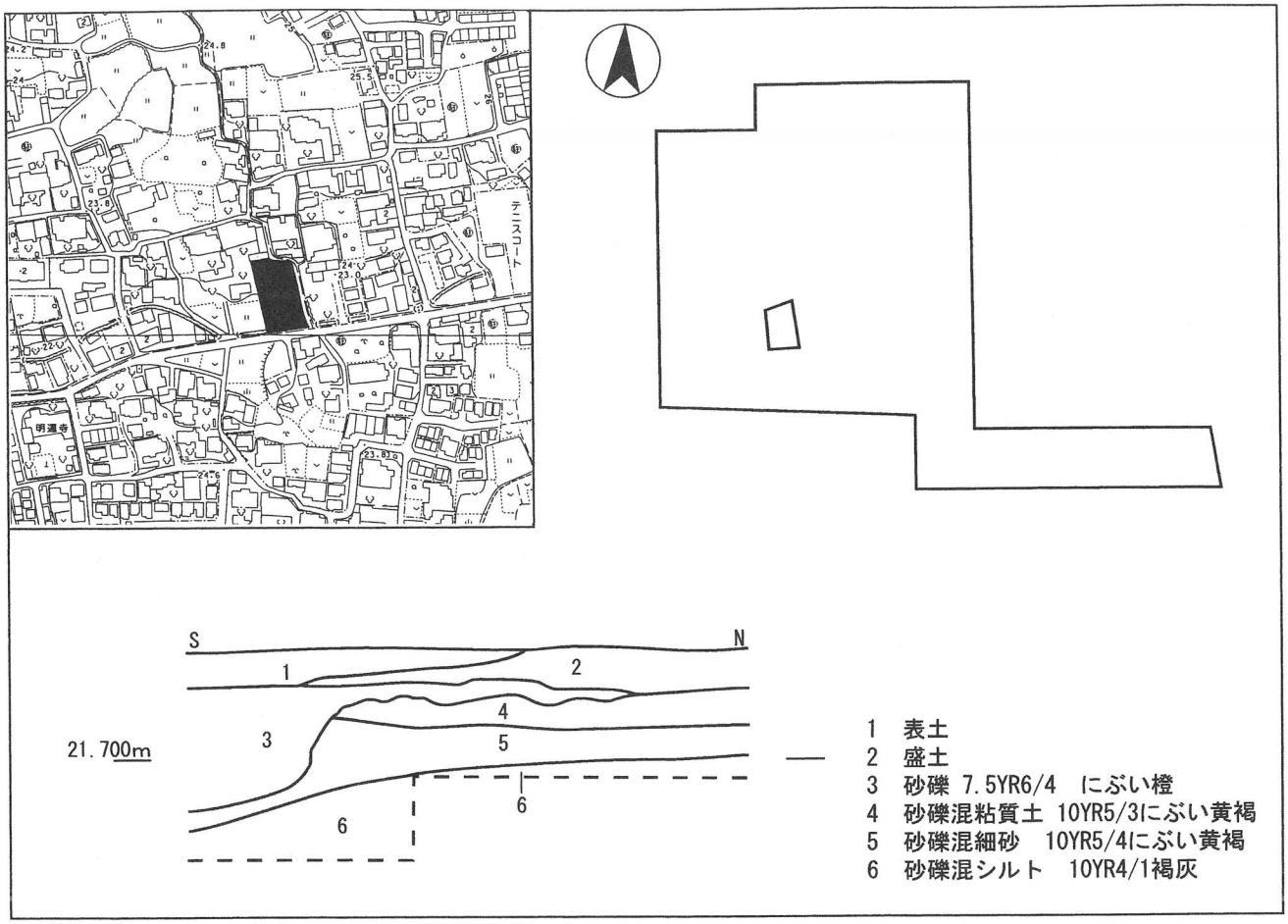


私部城跡 2008－１次調査（平面図：１/ 250　断面縦：１/20）

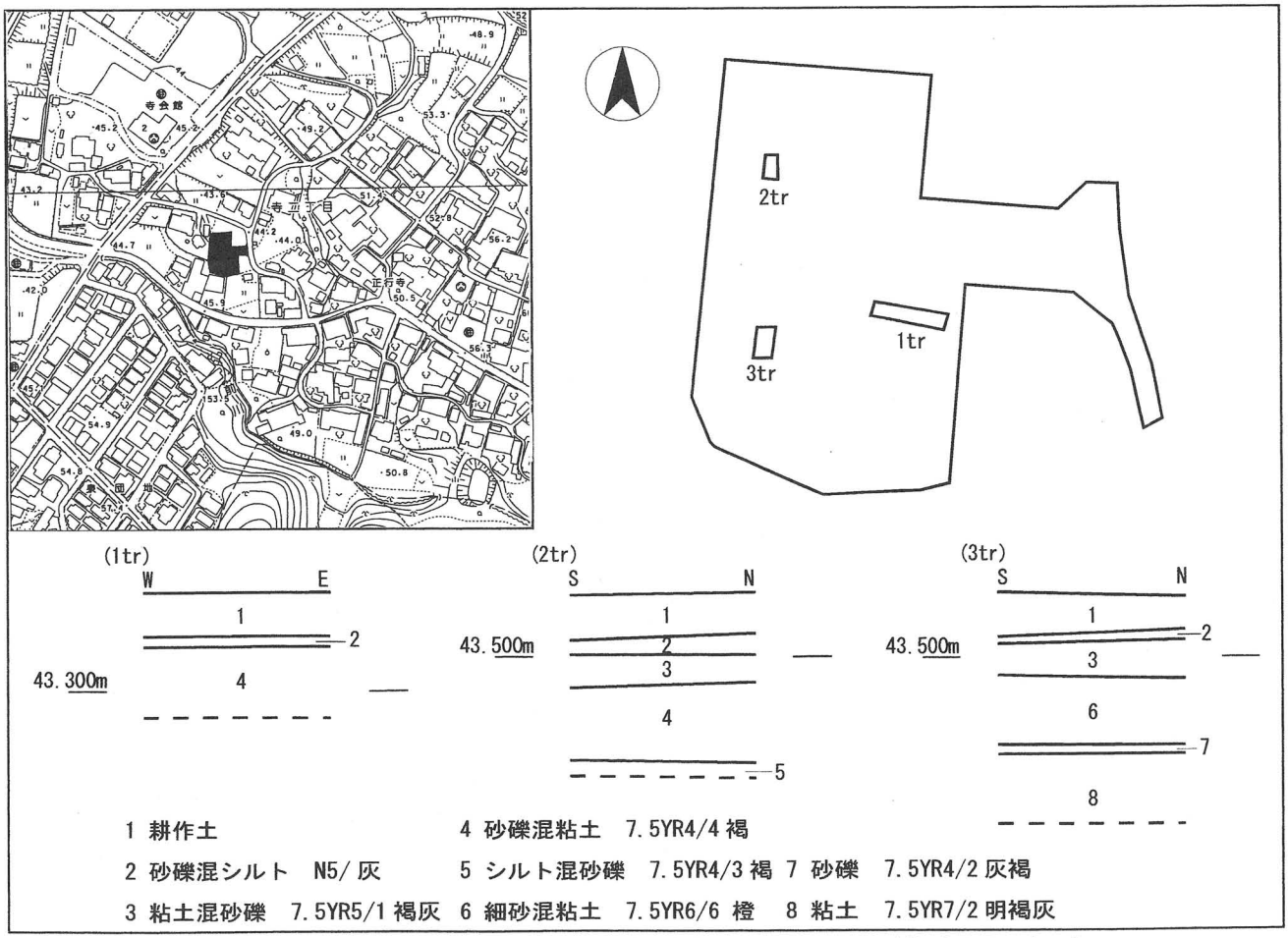


第８図　調査地位置図・掘削図及び断面模式図（５）

交野郡衙跡 2008－２次調査（平面図：１/250　断面縦：１/20）

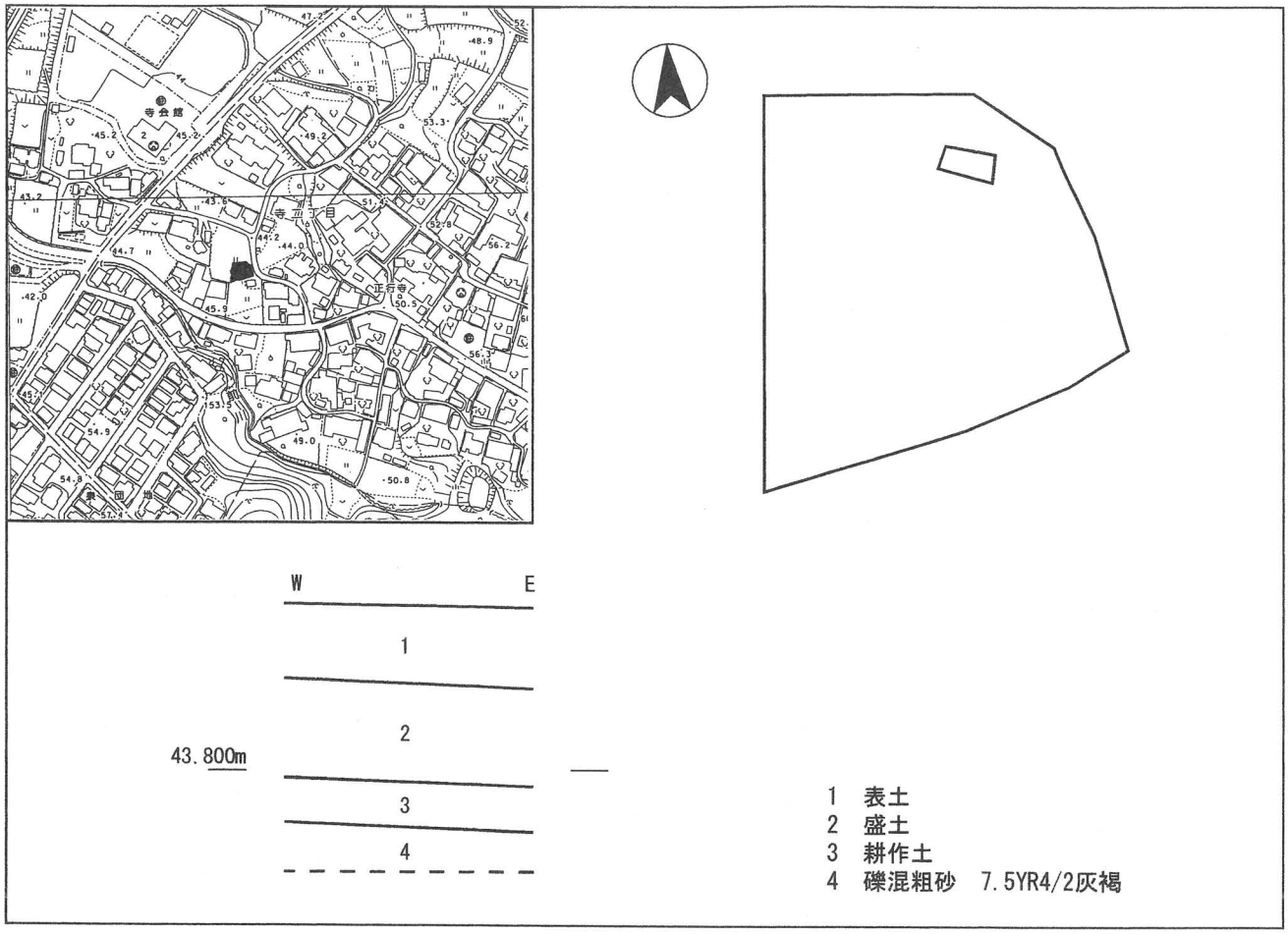


寺村遺跡 2008－１次調査　（平面図：１/500　断面縦：１/40）

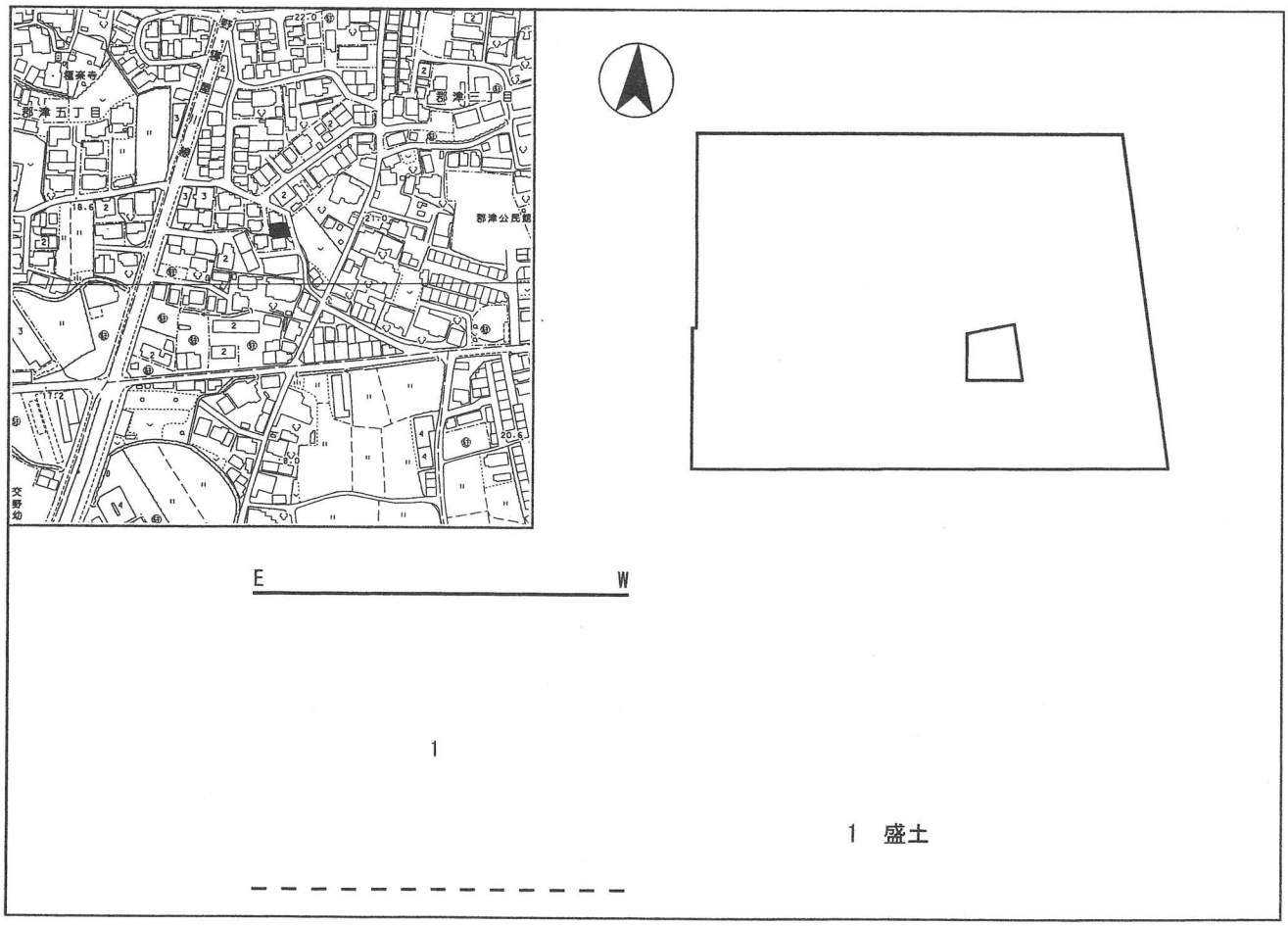


第９図　調査地位置図・掘削図及び断面模式図（６）

寺村遺跡 2008－２次調査　（平面図：１/250　断面縦：１/30）

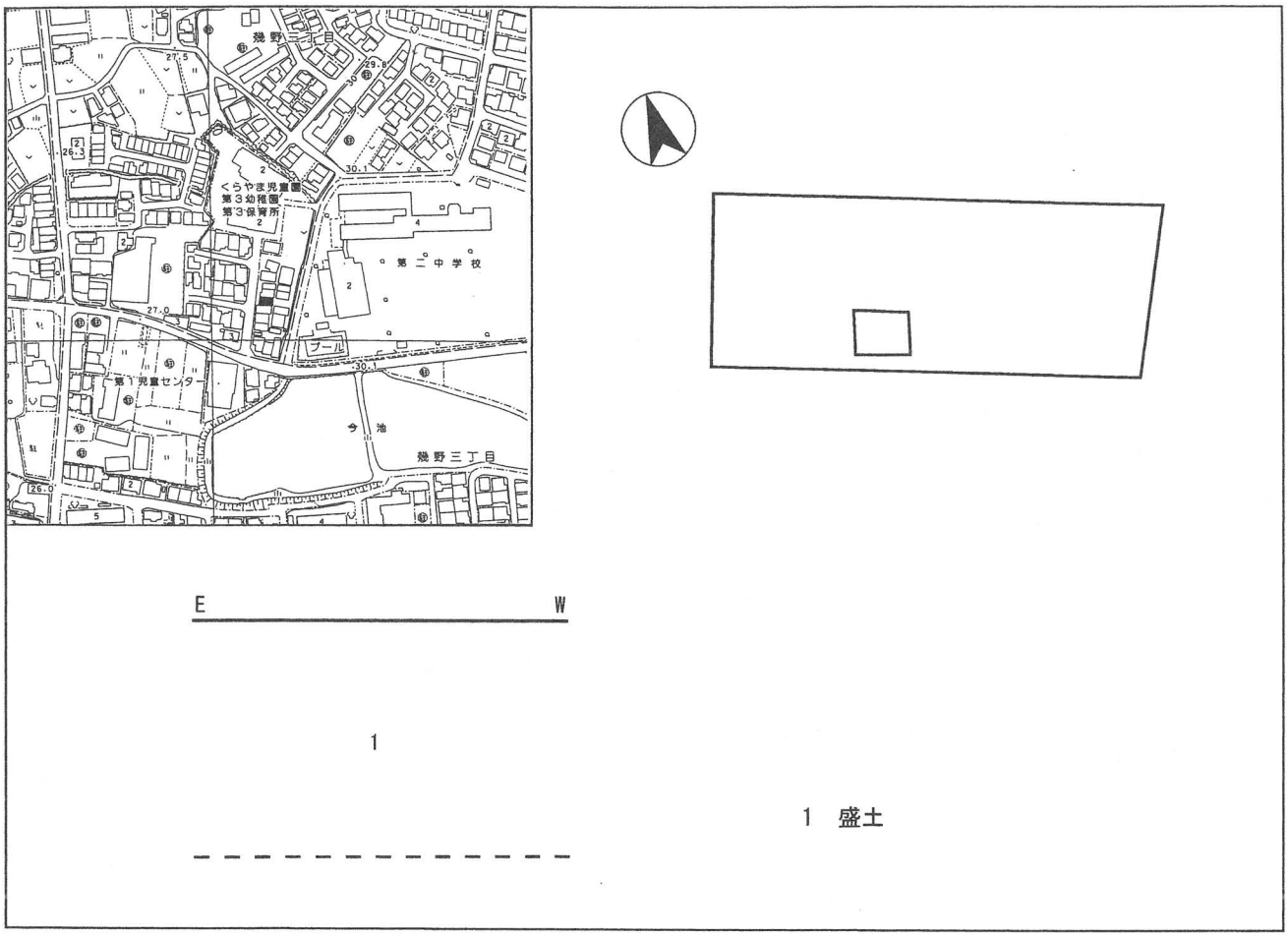


交野郡衙跡 2008－３次調査（平面図：１/ 200　断面縦：１/20）



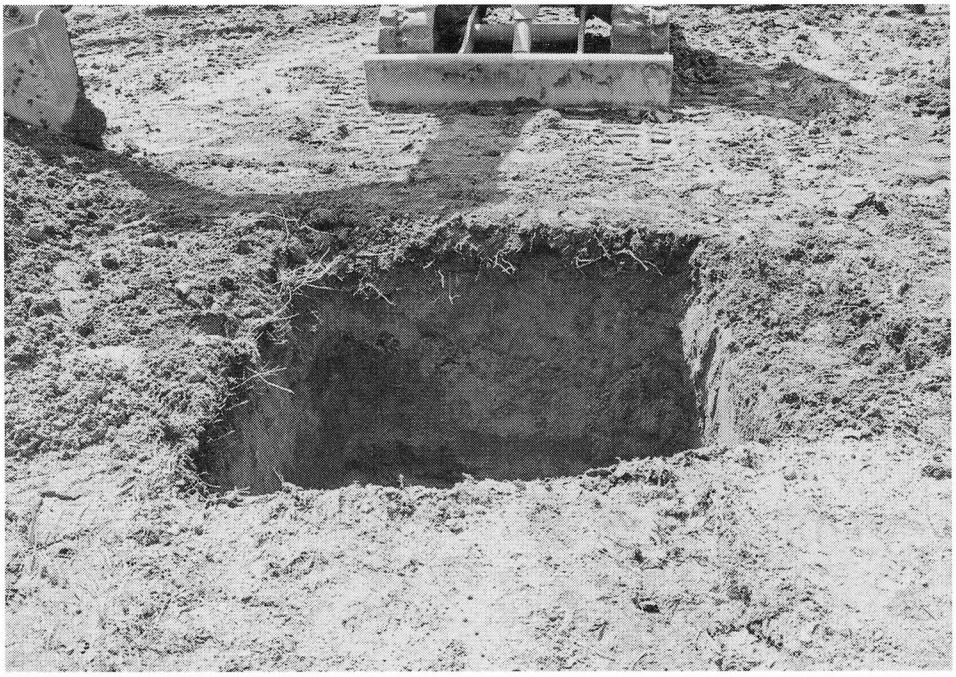
第 10 図　調査地位置図・掘削図及び断面模式図（７）

交野郡衙跡 2008－４次調査　（平面図：１/250　断面縦：１/20）

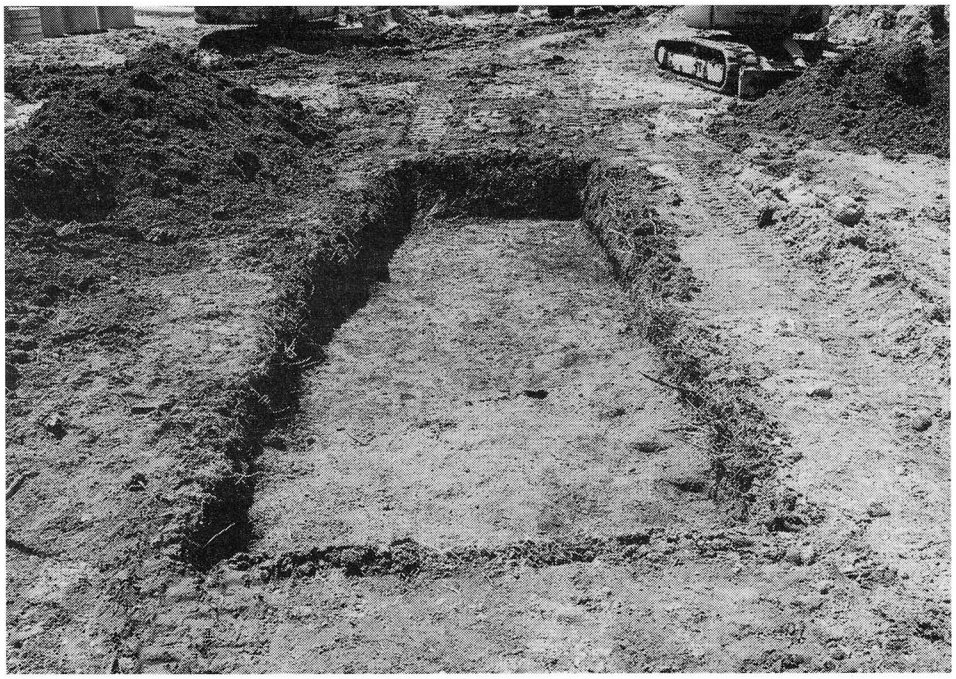


第 11 図　調査地位置図・掘削図及び断面模式図（８）

写　真　図　版



写真図版１　森遺跡 2008－１次調査　第１トレンチ



写真図版２　森遺跡 2008－１次調査　第２トレンチ

写真図版３　森遺跡 2008－４次調査　第２トレンチ

写真図版４　森遺跡 2008－４次調査　第３トレンチ

報告書抄録

ふりがな	へいせい20ねんどかたのしまいぞうぶんかざいはっくつちょうさがいよう
書名	平成20年度交野市埋蔵文化財発掘調査概要
副書名	
巻次	
シリーズ名	交野市埋蔵文化財調査報告2008－Ⅰ
シリーズ番号	
編著者名	小川暢子
編集機関	交野市教育委員会
所在地	〒576-0052　大阪府交野市私部1丁目1番1号　TEL (072)892－0121
発行年月日	西暦2009年3月

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	市町村 コード	市町村 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積 m^2	調査原因
森遺跡（もりいせき） 2008－1次	交野市森南（かたのしもりみなみ）	27230	37	34° 46′ 30″	135° 41′ 25″	2008. 4. 21	9. 75	共同住宅
森遺跡（もりいせき） 2008－4次	交野市森南（かたのしもりみなみ）	27230	37			2008. 10. 7 ～10. 11	21. 925	個人住宅

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
森遺跡（もりいせき）	生産地（せいさんち） 集落跡（しゅうらくあと）	弥生～中世	ピット 溝状遺構	土師器片 須恵器片	

平成20年度　交野市埋蔵文化財発掘調査概要

発　行　日　2009年3月31日
編集・発行　交野市教育委員会
大阪府交野市私部１丁目１番１号

印　刷　所　京阪工技社

（本報告書は、再生紙を使用しています。）